

クランクシャフトの挿入 専用工具があればシャフトの取り付けは簡単

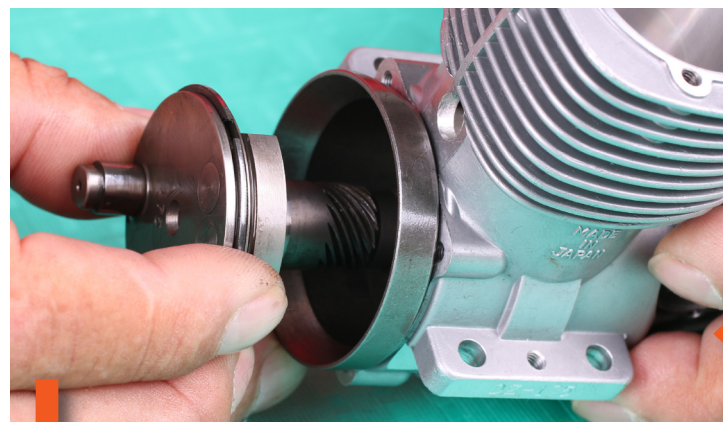


クランクシャフトには、ピストンリングと同じ「リング」が取り付けられている。実は、この「リング」があるためにクランクケースの段差が乗り越えられない。そのために必要な「専用工具」なのである。

↑写真では解りにくいですが、ベアリングの少し手前に「段差」ができています。その段差の先までクランクシャフトを入れなくてはならないので「専用工具」が必要なのである。



←この「専用工具」をクランクケースの後方にセットしたら、続けてクランクシャフトを挿入していく。たったこれだけの専用工具だが、これがないとクランクシャフトは入れられない。



↑写真のようにクランクケースの後方に「専用工具」をセットしたら続けてクランクシャフトを挿入する。さらに指でシャフトをグッと押すと、簡単にセットすることができるのだ。

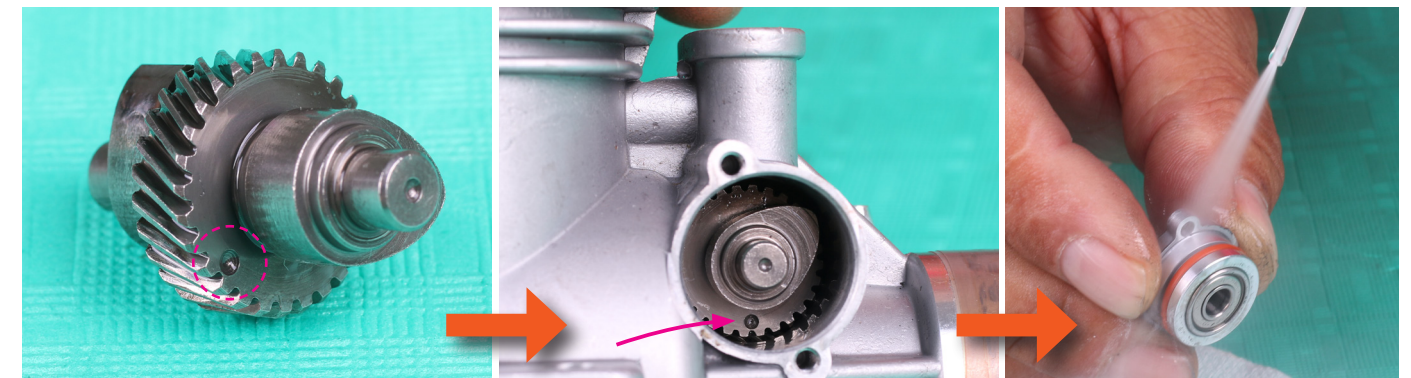


↑クランクシャフトにテーパコレットとドライブワッシャーをセットし、ナットでプロペラを締め付けるとこの作業は完了だ。



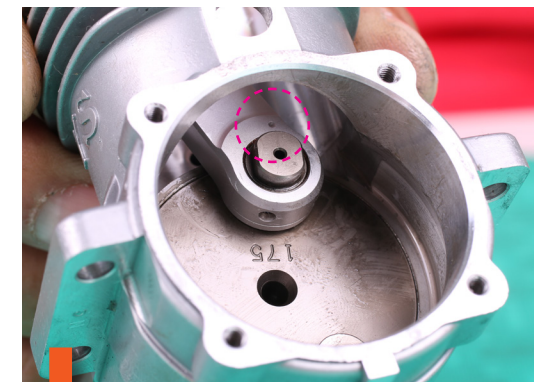
↑写真のように「クランクシャフトのピン」が上死点の少し手前になるようにセットする。この位置をキープしたままの状態、「カム」を組み立てていこう。

「カム」に刻印されたマークの位置に注意しながら組み立てていこう

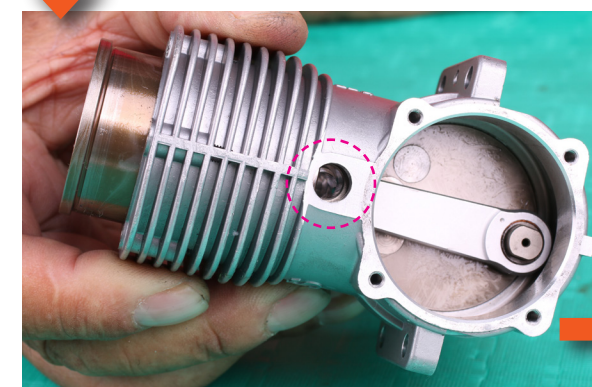


↑「カム」には刻印されたマークがあるので、クランクシャフトの位置に注意しながら刻印が「下」になるようにセットする。

↑「カムカバー」はパーツクリーナーなどを使って脱脂し、それから組み込むこと。

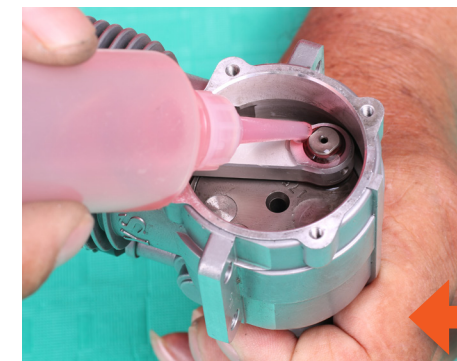


→カムフォロワーはバケツ型になっていて、底が下になるように挿入すること。挿入する前には、クロットオイルを適量流しておくベストである。
←コンロッドの刻印が見えるようにセットしていく。



←ピストンピンの取り付けは、ピストンとライナーが一緒の状態のままクランクケースの中に挿入し、ピストンの「ピンの穴」が見えたらピストンピンを挿入していこう。

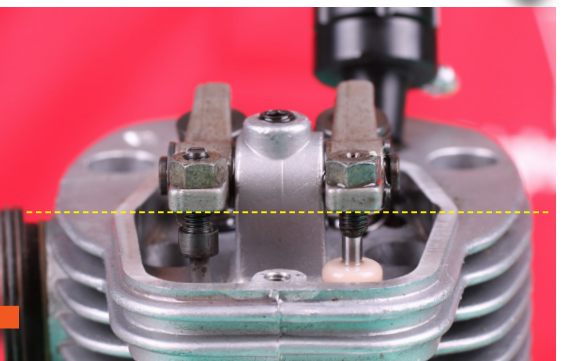
注※エンジンの組み立ては急ぎ足で説明しましたが、本誌「Vol.12」を参考にして組み立ててください！



↑コンロッドの両端にあるメタル部分にクロットオイルを流し、続けてキャブ関係を組み込んで完成させていこう！



↑ピストンピンを抜き取るための「穴」を塞ぐゴム製のカバーは忘れずに取り付けること。



↑「クランクシャフト」と「カム」の位置が合っていることを確認するには、ピストンが上死点の少し手前の時に左右のタペットが同じ位置にあればOK。